

パッケージのプレゼン台本

1. 衆参全国会議員に、「教育機会確保法」理解・啓発のために贈呈した封筒の提示（2枚）

【説明】 官房長官、文科大臣、文科副大臣を経験された国会議員のご推薦と共に、700名の全議員の皆さんに贈呈した時のメッセージ入り、封筒です。

（ねらい：ホームスクーリングは、国会・文科省と連携し、元文科大臣、副大臣の皆さんらの推薦の元、遵法精神で全国的に進められていること、子どもたちの最善の教育環境整備を目指した、最先端の教育ムーブメントである点をクリアに提示）

2. コンベンションパンフレットの提示

「6月に約800名が東京・大阪に集まって行われるコンベンション、8月には約200名が仙台に集まるサマーキャンプ、11月には長野県白馬のリゾートホテルで約300名が集まっての白馬セミナー等、全国・海外とのネットワーキングを進めています。（この2年はコロナでできなかったが20年あまり継続してきた）。我が家も、メンバーとして全国の皆さんとネットワーキングして進めたい。

（ねらい：各家庭が孤立しているのではなく、日本全国、また、欧米の講師陣や弁護士団体とネットワーキングを進めながら教育を行っており、しっかりした印象を情報提供できる。数千枚の写真から1枚というレベルで選ばれた写真を通して、ホームスクーラーたちのいきいきとした生活感や感動の心、真実性がリアルに伝わる。）

3. チア・マガジン記事のいくつかを紹介

「日本のホームスクーリングの法的位置づけ、全国の状況」についてのイメージをもっただけ。以下にポストイットを貼り、詳細は後ほど読んでくださいといいつつ、実際にポストイットを付けたページを開け、主に写真等を見てもらいながらコンパクトにポイント紹介。

①マガジン 43号

■P3

教師を目指す子ども、医師を目指す子ども（今年も数名、医師が誕生し、医学部にも数名進んでいます）、今年は初めて裁判官が誕生しました。これまで弁護士も2名誕生しています。ほかに、ボランティア活動、幼稚園の先生、ビジネス・芸術関係ほか、まさに多様な職業に進み、それぞれに与えられた使命に生き、社会貢献のできる子どもたちの育成を目指しています。

■P10 「教育機会確保法」をめぐるドキュメンタリー記事。

2016年12月に「教育機会確保法」が誕生し、「多様な学習活動の実情を踏まえる」（基本理念・第3条・附則3）「多様で適切な学習活動の重要性に鑑み」（13条）などの文言も明記され、ホームスクーリングを含めた多様な教育が法文化されました。その審議中、チア・につぼんも、約10名の文科大臣、文科副大臣経験者を含む30人あまりの関係議員、文科省の皆さんと個人面談を重ねて、チア・につぼんからの提案をしてきました。実際に、チア・につぼんが反対し、削除を求めた2項目は削除となりました。こうして、「教育機会確保法」も施行されることとなりました。後ほど、詳細をお読みください。

■P29 「少子化問題とは別世界」第5子、第8子の子どもたち

私たちは、プロテスタント系のクリスチャンで、特に産児制限を禁止したりしていません。それで、日本の教会は少子化問題にどこも悩んでいます。しかし、ホームスクーラーは、親が子育ての喜びに目覚めて、たくさん子どもたちが与えられている家庭が多いです。記事でも、4家族が第5子、1家族が第8子など、たくさんの赤ちゃんが与えられている様子が写真でご覧いただけます。

■P34 進学先

ホームスクーリングは、特に難関大学を目指す活動ではありません。しかし、高卒認定資格を取れば、難関国公立大でも専門学校でも海外の大学でも、試験対策をし、合格さえすれば、どこでも行けます。また、どこでも就職が可能な時代。ホームスクーラーの主な進路先の実績を記した表です。

■P43,44,45 の東日本大震災の写真

東日本大震災の時に、ティーンズのホームスクーラーたちは2年余りにわたって、宮城、岩手など8つの被災地のボランティアに通い続けることができました。このように、困った人々に尽くす心を育む、そうした行動を大切にしています。

■P49 世界で活躍するホームスクーラー

リンカーン、ワシントン大統領、シュバイツァー、CS ルイスら歴史的な人物や、最近のアメリカの著名なスポーツ選手たち等、多数がホームスクーリングで育っています。

■P48 笠浩史元文科副大臣（超党派フリースクール議連幹事長代理）との対談

後ほど読んでいただく。

■P53 馳浩元文科大臣（超党派フリースクール議連幹事長）との対談

後ほど読んでいただく。

■P58 河村建夫元官房長官（同議連会長）との対談

②チア・マガジン 44号

■P6～ 教育機会確保法 ドキュメンタリー記事

(P7に掲載されている、実際に個人面談を重ねた議員・党名の表を見せながら)、自民党から共産党まで党派を超えた各議員の皆さんと面談を重ねています。

(ねらい：名前や政党名、文科省スタッフ名の一覧表を提示することで、政府・国会との連帯関係やホームスクーラーの遵法・政策提案姿勢を再度、別角度から紹介)

■P18 南木武輝弁護士からの手紙

チア・にっぽんの顧問弁護士代表の南木（みなき）弁護士からの手紙です。

「教育機会確保法」は2016年末に可決されましたが、法律の内容は、南木弁護士の手紙に書いてある方向で可決し、施行されました。

(ねらい：法案に対するチア・にっぽんからの提案は、日本の弁護士とも相談しつつ、先行する欧米のホームスクーリング団体、弁護士団体らと連携し、理にかなった提案と歩みをしてきました。今回、法案が私たちが願ってきた方向で可決されたことで、ホームスクーリングやチア・にっぽんの提案が、理にかなっていることを示すことができます。)

■P20 進学・進路先（43号のアップデートバージョン）

■P24 浮島とも子元文科副大臣との面談

■P28 下村博文 元文科大臣との面談

■P42 各議員・関係者の皆さんによく聞かれた質問

(なぜホームスクーラーは、真の社会性が育まれるのか、ほか)

③マガジン 45号

■P8～ 特集記事「多様な教育機会確保法」が成立

P14 中段。議連総会において、チア・につぼんからの「教育機会確保法への文科省からの指針」への質問に対し、文科省初等中等教育局の坪田児童生徒課長の答弁が書かれています。「(本法律の指針として) 具体化する柱は多様性です。家庭も含めて、様々なバリエーションをそろえているところが、全体で多様性だと解釈していただければと思います。「教育機会確保法」は、そういう多様性をまさに担保する法律でありますし、それをさらに具体化させていただいて、現場がそれを見て、きっちりと動けるようにした指針を作らせていただいたということです」とのことです。

「多様な教育」「ホームスクーリング」を展開していく上で良き答弁をいただいたと思います。(特に、六戸町教育委員会の皆さんには、コピーして読んでいただきたい箇所でもあります。)

■P16 各議員からのチア・につぼんへの推薦のことば

2人の元文科大臣、3人の元文科副大臣からの推薦のことば。

■P● 石破茂元地方創生大臣との面談

■P● 最新のホームスクーリング調査結果 (アメリカにて)

④マガジン 46号

■P36 特集記事

議連総会にて報告・提案するチア・につぼん代表

(ねらい：写真での報告の様子を示すことで、国会・文科省におけるチア・につぼんやホームスクーリングの立ち位置の理解とやすよさんたちの発言への説得力につながってくる。)

⑤別冊

■最新記事より改正法案をめぐって「馳浩元文科大臣との面談」

(ねらい: 施行後、5年を経た同法は今、さらにホームスクーリング環境の整備のために、改正法案を練っています。そのために、今現在、さらに前進を目指して進んでいる様子を別冊記事で紹介)

■教育委員会からの質問へのケーススタディ

教育委員会から「教育機会確保法は、積極的なホームスクーラーのための法律ではない」と言われたケースほか4例についての法的な解説書。すべて解決に至り、現在、ホームスクーリングが行われているが、そのテーマの詳細ケーススタディ。

⑥チア・にっぽんニュースレター181号 (最新の動き等)
